



ひょうご水素利活用サロン

「ひょうご水素利活用サロン」とは

水素社会の実現を目指し、産官学連携体制によって、特に地域企業の方々と
の共創により、さまざまな課題の解決を目指す兵庫県立大学の取り組みです。



【背景(化石燃料に依らないエネルギー構造の必要性)】

○ 水素の位置づけ

水素は、究極のクリーンエネルギーと言われ、化石燃料を中心とする現在のエネルギー構造に取って代わるエネルギーの主演として注目されています。

水素はいろいろな物質から生成が可能であること、また、貯蔵や長距離輸送が可能であり、さらに、使用する際には電気、熱、動力に変換が容易であることも大きな利点です。一方で、水素におきかえるにはコスト、効率、インフラ整備など、解決すべき課題は多く存在します。

【水素エネルギー共同研究センターの取り組み】

○ 化石燃料を水素におきかえる技術・政策

兵庫県立大学水素エネルギー共同研究センターでは、学内の学部等の垣根を越えて、「化石燃料」を「水素」におきかえるための様々な方法について研究を行っています。具体的には水素関連基盤技術の研究開発機器等を備えたプラットフォームを構築し、最先端解析技術を駆使しながら基礎から応用に至る研究を文理融合体制で実施しています。今後、産官学連携体制を強化し、海外水素や国内グリーン水素の過疎地・離島へのエネルギー供給を政策科学的に検討し、兵庫県内にくまなく「水素」を届けることを目指します。



【兵庫県における水素関連産業振興を目指して】

○ 兵庫のポテンシャルを活かした水素関連産業振興に向けた取り組み

神戸港では水素の輸入とその利用に関する最先端の実証がなされています。将来的には大型タンカーの接岸可能な姫路港を拠点とした、水素輸入・利用サプライチェーン形成の構想もあり、兵庫県内の動きは活発です。播磨臨海地域は全国屈指のものづくり拠点であり、地域企業の水素ビジネスへの参入が望まれています。本学が「共創の場」を提供し、自治体、リーディング企業、地域企業の橋渡しを行うことで、企業のものづくりシーズ活用や水素ビジネス参入を支援して参ります。地域企業様の当サロンへの入会をお待ちしております。



会員のメリット(会費不要)

- ・水素エネルギー共同研究センターとの意見交換、共同研究、プラットフォーム利用(機器利用は有料)
 - ・自治体や水素リーディング企業との連携強化
 - ・大型予算の共同提案
- 以上により会員の水素ビジネス参入を支援

主な活動内容(2024年度)

- ・例会(姫路駅前じばさんびる)
7・10・1月第2火曜日17:30開催予定
(2024年度第1回は7月9日の予定)
- ・見学会(当センター、企業)、セミナー等を随時開催

